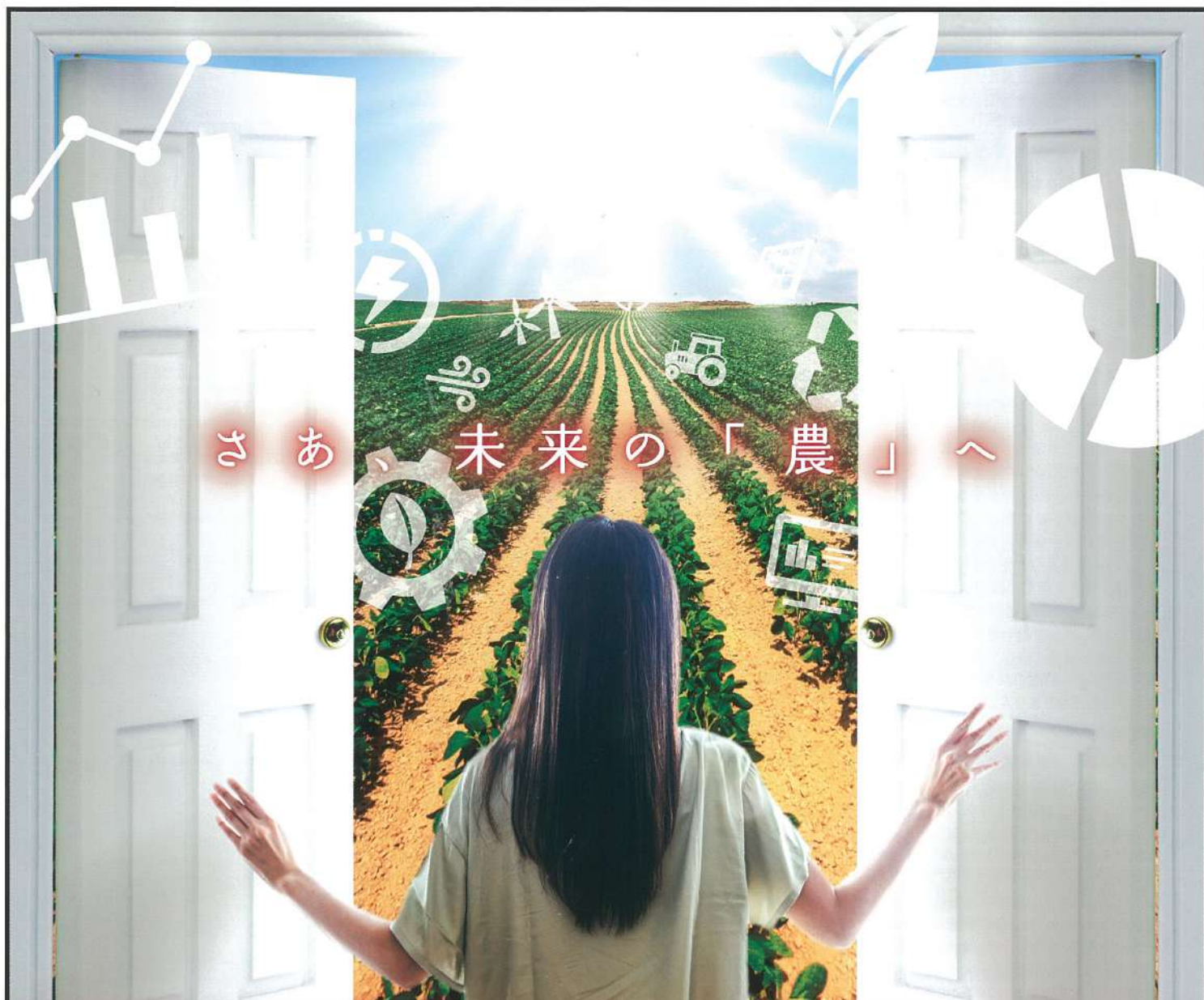


**YANMAR**

募集要領



第35回 ヤンマー学生懸賞

論文・作文募集

～`農業、を`食農産業、に発展させる～

[募集期間] **2024年6月1日(土)～10月20日(日)** [入選発表会] **2025年2月7日(金)**●論文の部 [大賞] **100万円** ●作文の部 [金賞] **30万円**

お問い合わせ

フリーダイヤル
0120-376-530
(月～金10:00～17:00)e-mail
ronbun@yanmar.com

パソコンから

ヤンマー論文作文
<https://www.yanmar.com/jp/agri/agrilife/prize/>
ご参考として第30回～第34回の入賞作品集を掲載しております。

携帯から

QRコードにアクセスしてください >>>



■ヤンマーの目指す農業の姿

“農業”を“食農産業”に発展させる

ヤンマーは、より高い生産性・より低い環境負荷・より強い経済性を追求し、これまでの機械化・省力化・資源の有効活用に加え、「食」の分野からも生産物の付加価値を高めていきます。

また、今までに培ってきたテクノロジーとソリューションで、持続可能な農業を実現し、食の恵みを安心して享受できる社会をめざし、農業を魅力あふれる食農産業へ発展させていきます。

■事業開始の背景

ヤンマーは、日本農業の転換期を迎えていた1990年、厳しい時代にも21世紀への夢と希望を持ち、先駆的な挑戦を試みる元気な農家やその集団が全国各地に誕生しつつあることを知り、「いま日本の農業がおもしろい〜その変化と対応〜」をスローガンとして、積極的に未来を語りエールを送ってまいりました。

その一方で、次世代を担う若者たちに農業と農村の未来について、自由な発想を論じてもらうことを趣旨として、「ヤンマー学生懸賞論文・作文募集事業」を開始いたしました。

■農業を取り巻く課題

農業が持続可能であり続けるために、今ある変化にどのように対応するかが重要な鍵となります。国連によると、現在約80億人の世界人口は、2050年には97億人まで増加する見込みです。また、近年の異常気象による農作物の不作が世界各地で報告されており、気候の変動は作物の生育に影響を与え、適期作業のタイミングが難しくなっています。日本の農業においても、高齢化や後継者不足が進み、離農が増加することで耕作放棄地が拡大し、農業生産量は減少傾向にあります。そんな中、平均経営耕地面積の大規模化など、いま農業を取り巻く環境は刻々と変化し、世界情勢が不透明な中、地球規模で様々な課題に直面しています。

あらゆる地域で経済発展を遂げ、人口が都市部に移動し、農業人口が益々減少していく中、少ない農業生産者が、増え続ける食料需要を賄っていくために、また、将来に向けて持続可能な未来（A Sustainable Future）を実現するために、現在の農業・食料生産の在り方そのものを進化・変革させていかなければなりません。

■趣旨

ヤンマーは、これまで追求してきた農業の「生産性」と「資源循環」を今後も継続し、更に高いレベルを目指すとともに、農業の儲かるかたち、農業や生産物そのものの付加価値を高める、「経済性」の追求にも取り組んでいます。第一次産業である農業は、人々の健康を守り命を育むために欠かせない大切な存在でありながら、利益を生み出しにくい構造となっています。農業生産の先にある加工、流通、消費に至る“フードバリューチェーン”に入り込み、広く、“農”や“食”に対する課題の解決策を提供したいとの思いから、生産物の付加価値を高めることで、「持続可能な農業のかたち」を次世代を担う若い皆様と一緒に考えていきたいと思ひます。

本事業も今年で35回を迎えます。学生の皆様には、日本や世界の農業において直面する課題を捉え、持続可能な農業を実現するための新たな発想を広く自由な観点で論じ、夢と若さあふれる提言を数多くお寄せいただきたいと思います。

論文の部：募集要領

上記趣旨に沿い、持続可能な農業の確立を目指した“先駆的挑戦”を内容としてください。農産技術、農芸化学、農業モデル（都会、中山間地、大規模平野、臨海地域）、新規ビジネスモデル、スマート農業、資源環境・自然科学・健康福祉・農と食のバリューチェーン・教育・流通との連携など、あなたが学習・研究しているさまざまな分野から独自の構想で提言し、その実現の過程、手法等を論理的に述べて下さい。また、今日的切り口として下記も参考にしてください。

〈参考〉

- 1) 高い生産性を誇る食料生産の実現
- 2) 安全・安心な食料生産と供給
- 3) 多様化する食ニーズへの対応
- 4) 持続可能な地球環境との調和
- 5) 6次産業化による生産者の経済性向上
- 6) 産地から食卓までを繋ぐ食のバリューチェーン確立
- 7) 健康福祉と農業の関わり
- 8) テクノロジーとサービスによるトータルサポートの創造

その他“将来の夢の農業”の創造・提案など、あなたの独自のテーマを設定して、論文にまとめて頂いても結構です。

1. 応募資格：2024年4月1日時点で、下記項目の全てに該当する方

1)所属	右記のいずれかに在籍する学生 ※上記において全学部全学科対象。 ※外国への留学生、外国からの留学生も可。(国籍不問)	・大学 ・大学院 ・短期大学 ・専門職大学 ・農業大学校 ・農業短期大学 ・各種専門学校
2)年齢	30歳以下 ※但し、外国からの留学生(日本国籍でない方)は35歳以下。	
3)前提条件	(1)作品は本人のもので、かつ、未発表のものに限る。 ※同一作品を他へ発表(応募)予定している場合の応募は不可。 (ご不明な場合は事務局までお問い合わせください。) (2)グループによる共同執筆可。 (3)過去、論文の部入賞者の応募は不可。 (4)過去、作文の部入賞者の応募は可。	

2. 応募規定

1)言語	日本語
2)作成ソフト	Microsoft Word ※PDFでの応募可。 ※手書き、紙原稿のスキャン不可。
3)用紙規格	A4サイズ 縦
4)書式	横書き
5)文字数 書体 文字サイズ	本文部分の総字数で、8,000字以上、12,000字以内とする。 他部分(表紙、要旨、目次、添付資料、データ・図表、参考文献等)の文字数は、総字数に含まない。 原則として、『横40文字 × 縦40行』のレイアウトとし、用紙1枚あたり1,600字以内とする。 明朝体またはゴシック体で10.5～12ポイント
6)提出書類	(1)要旨 A4サイズ 縦1枚に横書き、800字以上1,200字以内で作成すること。 (図表の使用は不可) ※冒頭に題名(作品タイトル)を明記すること。 ※氏名・学校名は記載しないこと。 (2)論文原稿 以下①～④を1つの文書ファイルにまとめること。 ※図・表・写真等も本文ファイル内へ貼り付け、別ファイルにしない。 ①目次 必ず目次をつけること。 ②本文 本文冒頭に題名(論文タイトル)を記載する。 ※氏名・学校名は記載しないこと。 ページ数を打つこと。 ※ページは文字数に含まない。 原則として、本文中の適切な箇所へ挿入すること。 タイトルの記入位置は、図・写真の場合はその直下に、表の場合はその直上とする。 また原則として挿入の位置は、 それらがレポート内の文章に最初に登場したページもしくはその次のページに入れること。 図・表の見やすさは、評価のポイントになるため、画質や精細に注意すること。 ※文字・数字は読めるサイズにし、必要な場合は、カラーで提出すること。 (凡例データの多い棒グラフなど) DVD、ビデオ等の動画資料は不可とする。 ④参考文献 参考文献のある場合は、「題名、著者名、出版社名、刊行年、参考頁」を明記した一覧を末尾に添付すること。
7)応募方法	弊社ホームページからの応募に限る。 ※紙での郵送は不可。

作文の部：募集要領

上記趣旨に沿った作文をまとめてください。あなたの感じていること、夢や思いを、これまでの体験やその時の情景を描写しながら作文にまとめてください。

1. 応募資格：2024年4月1日現在で、下記項目の全てに該当する方

1)所属	右記のいずれかに在籍する学生 ※外国への留学生、外国からの留学生も可。(国籍不問)	・農業大学校 ・農業短期大学
2)年齢	25歳以下	
3)前提条件	(1)作品は本人のもので、かつ、未発表のものに限る。 ※同一作品を他へ発表(応募)予定している場合の応募は不可。 (ご不明な場合は事務局までお問い合わせください。) (2)過去、作文の部入賞者の応募は不可。 (3)過去、論文の部入賞者の応募は可。	

2. 応募規定

1)言語	日本語
2)作成ソフト	Microsoft Word ※PDFでの応募可。 ※手書き、紙のスキャン不可。
3)用紙規格	A4サイズ 縦
4)書式	横書き
5)文字数 書体 文字サイズ	総字数で、2,800字以上3,200字以内とする。 原則として、『横40文字 × 縦40行』のレイアウトとし、用紙1枚あたり1,600字以内とする。 明朝体またはゴシック体で10.5～12ポイント
6)提出書類	(1)作文原稿 本文冒頭に題名(作文タイトル)を記載する。 ※氏名・学校名は記載しないこと。 ページ数を打つこと。 ※ページは文字数に含まない。
7)応募方法	弊社ホームページからの応募に限る ※紙での郵送は不可 上記(1)を応募申し込みサイトにアップロードすること。

募集期間・発表

募集期間	2024年6月1日(土)～10月20日(日)23:59までにエントリー
結果発表	【入賞者決定(社内審査会)】 2024年12月18日(水) 予定 社内審査会で決定後、12月20日(金)までに入賞者本人へ通知予定 【入選発表会開催予定】 2025年 2月7日(金) 集合形式にて開催予定 ※開催場所は決定次第関係者にご連絡。 【入賞結果掲載・落選結果通知】 2025年 2月下旬 を予定 弊社ホームページに入賞者一覧を掲載 ※落選結果通知は、本人への応募記念品の発送をもって替えさせていただきます。

* 論文の部 入選者の方へ

入選発表会会場にて、論文の内容をまとめたパネルを展示いたします。入賞通知を受けた方は次の要領にて、パネル用資料を作成願います。詳細は入賞者本人へ改めてご連絡いたします。入選発表会がオンライン開催となった場合は、作成不要です。

1)提出期間	入賞通知後～2025年1月17日(金) ※メールにて事務局まで送付してください。
2)対象となる資料	論文要旨、論文内で使用したデータ(図、表、グラフ、写真等) ※論文内で使用していないデータは対象となりません。
3)パネル用資料作成要領	Microsoft WordのA4サイズ 縦、横書きで2ページとします。 1ページ目に論文タイトル・学校名・氏名・論文要旨を記載。 2ページ目に論文内で使用した図表を貼付けしてください。 ※作成いただいた資料を事務局にてA1サイズのパネルに加工いたします。
4)文字サイズ	12～16ポイント

表彰・賞金

論文の部

賞	受賞数	賞金	贈呈品
大賞	1編	100万円	表彰楯
特別優秀賞	2編	30万円	表彰楯
優秀賞	10編	10万円	表彰楯

作文の部

賞	受賞数	賞金	贈呈品
金賞	1編	30万円	表彰楯
銀賞	2編	10万円	表彰楯
銅賞	10編	5万円	表彰楯
奨励賞	15編		賞状、記念品

※論文の部グループ応募の場合、表彰楯は代表者に1枚、グループメンバーには表彰状を贈呈いたします。
※入賞されなかった場合も、応募資格・応募規定を満たした方には、応募記念品をお送りいたします。

審査方法

事務局審査	事務局による審査(応募資格、応募規定、類似・剽窃等の審査)
社内審査 (一次・二次)	弊社内選考委員による内容審査 ・入賞作品(論文・作文各13編)の選出 ・作文の部 奨励賞の決定 ※発表は入選発表会の開催後
最終審査	最終審査委員による審査 ・各賞の決定 ・論文の部については、最終審査委員による簡単なインタビューを実施予定

最終審査委員（五十音順、敬称略）

●植松 千代美(うえまつちよみ)氏 【専門/植物育種学・環境教育】
東北大学大学院農学研究科修士課程修了、農学博士。明治大学農学部実験助手補、植物工学研究所の博士研究員を経て、1991年より大阪市立大学附属植物園に勤務。助手、講師、准教授を経て2022年3月退職。日本学術振興会より「ひらめき女ときめきサイエンス推進賞」受賞。植物園を利用した教育実践により大阪市立大学(現大阪公立大学)教育後援会より優秀教育賞受賞。現在は絶滅危惧種のイワテヤマナシ(ミチクナシ)保全のため岩手県にいわてやまなし研究所設立準備中。主な著書に『食環境科学入門 食の安全を環境問題の視点から』(ミネルヴァ書、共著)、『都市・森・人をつなぐ～森の植物園からの提言』(京都大学学術出版会、編著)などがある。

●大杉 立(おおすぎりゅう)氏 【専門/農業】
東京大学農学部卒業、農学博士。農林水産技術会議事務局研究調査官、農業生物資源研究所光合成研究室長、農林水産技術会議事務局研究開発官を経て、2001年より2016年まで東京大学大学院農学生命科学研究科教授。同大学院農学生命科学研究科特任教授を経て、現在八ヶ岳中央農業実践大学校校長、および東京農業大学客員教授。日本学術会議連携会員、(一社)日本農学会会長、日本農学アカデミー副会長。これまでに、日本作物学会賞などを受賞。日本作物学会会長、総合科学技術会議革新的技術推進アドバイザーなどを務める。主な著書に『作物学(朝食農学体系10)』(朝倉書店、共著)、『作物生産生理学の基礎』(農山漁村文化協会、共著)などがある。

●近藤 直(こんどうなおし)氏 【専門/農業工学】
京都大学大学院農学研究科修士課程修了(農業工学専攻)、農学博士。岡山大学助手、助教授、愛媛大学教授などをを経て、2007年より京都大学大学院農学研究科教授。これまでに、アメリカ農業工学会功績賞、農業機械学会賞学術賞、同学会森技術賞、日本生物環境調節学会賞(学術賞)、(一財)日本機械学会ロボメカ部門技術業績賞、農林水産省農業技術功労者表彰、日本農業工学学会賞、日本農学賞、文部科学大臣表彰科学技術賞、(公社)大日本農会緑白綬有功章などを受賞。主な著書に『農業ロボット(1)(II)』(コロナ社)、『生物生産工学概論～これからの農業を支える工学技術～』(朝倉書店)、『Physical and Biological Properties of Agricultural Products』(京都大学出版)、『農業食料工学ハンドブック』(コロナ社、いずれも共著)などがある。

●佐藤 年緒(さとうとしお)氏 【専門/環境・科学技術】
東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程修了、博士(学術)。(株)時事通信社の記者、編集委員として地方行政や科学技術、地球環境や水問題を報道。2003年退社後、国立研究開発法人 科学技術振興機構発行の科学教育誌『Science Window』編集長などをを経て、現在、環境・科学ジャーナリスト、日本科学技術ジャーナリスト会議理事。著書に『森、里、川、海をつなぐ自然再生』(中央法規)、『つながるいのち～生物多様性からのメッセージ』(山と溪谷社、いずれも共著)などがある。

●生源寺 眞一(しやうげんじんいち)氏 【専門/農業経済学】
東京大学農学部卒業。農林水産省農事試験場研究員・同北海道農業試験場研究員、東京大学農学部助教授・同教授、名古屋大学農学部教授を経て、2017年4月に福島大学教授(食農学類準備室長)。2019年4月から2023年3月まで同食農学類長。現在は日本農業研究所研究員、東京大学名誉教授、福島大学名誉教授。このほか、認定NPO法人樹恩ネットワーク会長、全国町村会地域農政未来塾塾長、NPO法人中山間地域フォーラム会長など。これまでに東京大学農学部部長、日本農業経済学会会長、日本学術会議会員も務める。近年の著書に『農業と農政の視野』(農林統計出版)、『農業がわかると、社会のしくみが見えてくる』(家の光協会)、『農業と人間』(岩波書店)、『「い」た「だ」きまず』(少年写真新聞社)などがある。

応募先アドレス

ホームページ

<https://www.yanmar.com/jp/agri/agrilife/prize/>

よりご応募ください。

権利関係について

- 応募にあたり記入頂いた個人情報、本懸賞にかかる審査及び審査結果の通知並びにこれらに付随する行為のために利用します。本目的以外で利用する場合は、必ず本人の同意を得たものに限りします。
 - 応募作品に応募者の学校での研究内容等を反映する場合、予め指導教官等関係者の了承を得たものに限りします。
 - 本懸賞にかかる入賞者のいかなる権利も、第三者に譲渡することができません。
 - 応募作品のデータは返却しませんので、必要の方はファイルをお手元に保存するようお願いします。
 - 応募作品の著作権は著作者本人に帰属します。ただし、入賞者は主催者に対し、応募作品が入賞した時点（入賞者に対し主催者が入賞の連絡をした時点）で下記について許諾するものとします。また、入賞者は、主催者の事前の書面による承諾なく、主催者以外の第三者に入賞作品を利用させることはできないものとし、また、他の懸賞又はコンテスト等に入賞作品を応募することはできないものとします。
- (1)入賞作品を入賞作品集として編集し、①入賞者、学校、後援団体、審査委員等、その他関係各所へ無償配布すること、②翌年度の本懸賞広報活動として全国の大学、図書館等へ無償配布すること、③弊社ホームページ上で2025年4月から5年間掲載すること
- (2)本懸賞を広報するため印刷物やホームページで利用すること
- 主催者ホームページ、入賞作品集及び翌年度の本懸賞の募集要領その他懸賞の広報資料にて、入賞者の学校名、学部、学年及び氏名を公表するとともに、顔写真を掲載します。入賞者は、入選発表会において主催者が撮影した入賞者の肖像が含まれる画像、動画及びインタビュー内容等について、主催者ホームページ、入賞作品集等で使用することに同意するものとします。

問い合わせ先

- フリーダイヤル 0120-376-530 (月～金 10:00～17:00)
- メールアドレス ronbun@yanmar.com
- 事務局 〒702-8515 岡山県岡山市中区江並428
ヤンマーアグリ株式会社 人事総務部内
ヤンマー学生懸賞論文・作文募集事務局
- ホームページ <https://www.yanmar.com/jp/agri/agrilife/prize/>
参考として第30回～第34回の入賞作品集を掲載しております。

主催・後援

主催：ヤンマーアグリ株式会社

後援：農林水産省

一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構
公益社団法人 大日本農会

●一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構

グリーン・ツーリズム等の取組みにより培ってきたノウハウと人的ネットワークを活かした中間支援組織として、都市と農山漁村の交流促進を通じた農山漁村活性化支援、都市農村交流の情報収集・発信、農山漁村体験施設の登録等を行っている。(2001年、農山漁村交流協会、ふるさと情報センター及び21世紀村づくり塾の3財団法人の合併により設立。2013年4月より一般財団法人に移行。)

●公益社団法人 大日本農会

明治14年に設立されたわが国で最も歴史ある全国的な農業団体。設立当初から皇族を総裁としていただいております。現在は、七代目として秋篠宮皇嗣殿下を総裁に推戴している。農業の発展及び農村の振興を図ることを目的に、農事功績者表彰事業、農業・農村に関する調査研究事業、会誌「農業」の刊行等を行っている。2011年7月1日、内閣府より「公益社団法人」に認定。

👑 (前年)第34回ヤンマー学生懸賞論文・作文募集入賞(敬称略)

論文入賞者(代表者)

大賞

早川 蛍 東京農業大学/国際食料情報学部

特別優秀賞

村添 斗志緒 鹿児島県立農業大学校/畜産学部
成田 響子 拓殖大学/国際学部

優秀賞

藤田 真心 宮崎産業経営大学/経営学部
上原 杏子 長野県立大学/グローバルマネジメント学部
鶴喰 咲里奈 鹿児島県立農業大学校/畜産学部
東海林 蓮 東京農工大学/農学部
平山 巧 九州大学大学院/生物資源環境科学府
白田 環暉 八戸学院大学/地域経営学部
加藤 健人 東京農業大学/生物産業学部
柚木 沙都 摂南大学/農学部
甲斐 宏行 京都大学大学院/公共政策教育部
宮内 菜々 鹿児島県立農業大学校/畜産学部

作文入賞者

金賞

中村 太羅 岩手県立農業大学校/農産園芸学科

銀賞

柳田 心音 福島県農業総合センター農業短期大学校/農業経営部
末永 清十朗 鹿児島県立農業大学校/畜産学部

銅賞

永島 愛莉 鹿児島県立農業大学校/畜産学部
金山 大樹 鹿児島県立農業大学校/畜産学部
福元 好誠 鹿児島県立農業大学校/畜産学部
大窪 翼 鹿児島県立農業大学校/畜産学部
石倉 琉星 岩手県立農業大学校/畜産学科
白坂 光太郎 福島県農業総合センター農業短期大学校/農業経営部
原田 あやの 鹿児島県立農業大学校/畜産学部
上野 朝陽 鹿児島県立農業大学校/畜産学部
前田 むつ子 鹿児島県立農業大学校/畜産学部
BUI NHU LOC 鹿児島県立農業大学校/農学部

奨励賞

外園 龍斗 鹿児島県立農業大学校/畜産学部
赤崎 基輝 鹿児島県立農業大学校/畜産学部
佐藤 明日美 愛知県立農業大学校/教育部
佃 隆太 鹿児島県立農業大学校/畜産学部
齊藤 花恋 岩手県立農業大学校/農産園芸学科
黒崎 蓮 栃木県農業大学校/農業生産学部
吉村 愛実 栃木県農業大学校/農業生産学部
嶋原 直央 福島県農業総合センター農業短期大学校/農業経営部
関根 海斗 福島県農業総合センター農業短期大学校/農業経営部
西村 舞奈 山形県立農林大学校/野菜経営学科
高木 景生 福島県農業総合センター農業短期大学校/農業経営部
首藤 理杏 愛知県立農業大学校/教育部
山内 希 鹿児島県立農業大学校/農学部
立木 美愛 鹿児島県立農業大学校/農学部
大西 加奈 長崎県立農業大学校/園芸学科

※同一賞は応募受付順に記載しております。
※弊社のホームページ(<https://www.yanmar.com/jp/agri/agrilife/prize/>)には、第30回～第34回の入賞作品集を掲載しております。

受賞者の声

第34回「論文の部」大賞

早川 蛍さん



①応募のきっかけは?

大学で取り組んだ研究や活動を、後輩につなげるために文書で残したいと考え、ヤンマーの懸賞論文に応募してみようと思いました。

②執筆で苦労した点は?

規定文字数内に書きたいことを収めることに苦労しました。また初めての共同執筆だったため、意見の食い違いなどもありましたが、互いに意見を出し合いながら執筆しました。

③賞金の使い道は?

通帳を見た時は驚きました!後輩との大人数での懇親会や、社会人としての新生活に役立てています。

④応募を検討している学生にメッセージを!

入賞しなくても、自分が取り組んできたことが、論文として形に残ることはとても良いよ!と伝えたいです。著名な先生方に自分の論文を審査、評価していただけたことは貴重な経験になりました。是非チャレンジしてみてください!